

S-RED 通信

社会・地域創発本部 Society Region Emergence Department

【報告】プレコン ワークショップ in 岩見沢 大学生が「じぶんらしい人生」と「ありたい世の中」を考える

北海道大学 COI-NEXT こころとカラダのライフデザイン共創拠点（以下、拠点）は、10/22と11/23、岩見沢市において、「プレコンセプションケア」への理解を深めながら、「じぶんらしい人生」と「ありたい世の中」について考えるワークショップを開催しました。

今回のワークショップは、拠点で副プロジェクトリーダーを務める荒田尚子先生が取り組んでいる、研究開発課題「プレコンセプションケアの実施」の一環として開催され、参加した北海道教育大学岩見沢校の学生は、自身と社会の将来について、活発な対話と議論を行いました。

DAY.1 「じぶんらしい人生と必要なことを考える～プレコンを知ろう・考えよう～」(10/22)

「プレコンセプションケア」は、ほとんどの参加者が初めて聞く言葉であったため、プログラムの冒頭に、荒田先生がその概念を説明し、「自分のこころとカラダについて正しい情報を持ち、意識的にプレコンセプションケアに取り組むことで、将来の自分や家族の健康と幸せにつながる」と伝えました。

参加者はその後、自分の理想や希望などから一人ひとりの「じぶんらしい人生像」を作成し、その実現に向けて必要なことについて議論を行いました。「じぶんらしい人生」の大事な要素を考えるワークでは、「良い家族・友人関係」、「余裕ある生活」、「それを支える収入と健康」などがあげられ、参加者は、同じ年代でも多様な価値観を持っていることを学びました。



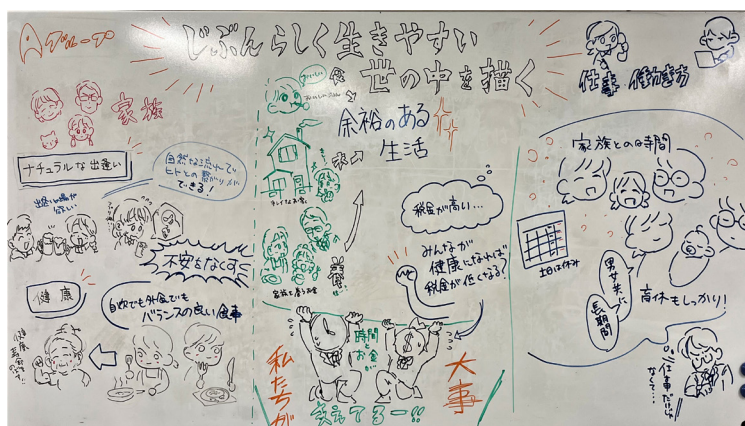
DAY.2 「じぶんらしく生きやすい世の中を描く～ありたい社会像の提言～」(11/23)

参加者は、DAY.1 で思い描いた「じぶんらしい人生像」と、今の社会動向やデータ等を照らし合わせて、理想と現実の違いを確認しました。その中から重要なトピックを選び、問題点や課題を整理した後、自分が35歳の時の「ありたい社会像」について、グラフィックを用いてまとめていきました。

「ありたい社会像」では「家事や育児を社会全体で支える仕組みづくりの必要性」や「生活を支えるための社会や企業制度の充実」、「ロールモデルとなる人材が多くいる社会」などの意見があげられました。

参加者からは、「健康がすべての基礎になると思った」「自分だけの視点では気がつかないことがたくさんあると知った」などの感想があげられました。

荒田先生は、「参加者はしっかり考えていて、15年後の未来に希望が持てる」と感想を述べました。



【研究開発課題】：プレコンセプションケアの実践

日本版プレコンセプションケア教材の開発と普及

多様性が拡がりつつある今、自分らしく生きるためには、何が必要なのでしょう？拠点では、多様な選択肢を増やすためには、自分のこころとカラダを正しく理解することが必要不可欠だと考えています。私たちはその仕組みをつくることで、若い世代が自分らしく生き、望めば望んだ時に産み、安心して育てられ、誰もが活躍できる地域社会をめざします。今回は、プレコンセプションケアの実践を通してその仕組み作りに取り組む、副プロジェクトリーダーの荒田尚子先生の研究をご紹介します。

プレコンセプションケアとは

WHO（世界保健機構）の定義によるプレコンセプションケアは、「妊娠前の女性とカップルに医学的・行動学的・社会的な保健介入を行うこと」ですが、拠点では、妊娠を計画している・いないに関わらず、成長段階にあわせてこころとカラダの健康、家族、ウェルビーイングを考えるうえで、とても大切なケアだと捉えています。

荒田先生が取り組むプレコンセプションケアは、UNESCO の包括的なセクシュアリティ教育（以下、CSE）を土台としています。CSE は、①人間関係、②価値・権利・文化・セクシュアリティ、③ジェンダーの理解、④暴力と安全の確保、⑤健康と幸福のためのスキル、⑥人間のからだの発達、⑦セクシュアリティと性的行動、⑧性と生殖に関する健康という8つのキーコンセプトで構成されています。

なぜプレコンセプションケアなのか

日本の学校現場では、未だに「寝た子を起こす」ことを心配したり、男女別々に性成熟について説明するに留まったりで、若者が自分たちの体に向き合う機会が奪われています。小児期から思春期、成人期というライフステージの中で、その年代に適切な CSE 教育とケアを連続的に受けることによって、健康、ウェルビーイング（幸福）、および尊厳の実現可能性が高まります。妊娠・出産を望む場合、より健全な妊娠・出産のチャンスが増え、次の世代の子どもたちがより健康になることにも繋がります。

日本版プレコンセプションケア教材の開発と普及

荒田先生の研究グループは、厚生労働科学研究班と共同で、9～12歳、12～15歳、15～18歳を対象にした、日本の文化や慣習にあう「日本版プレコンセプションケア」教材とプログラムの開発に取り組んでいます。5～8歳と18歳以上40歳未満の教育プログラムと教材は、すでに厚生労働科学研究で開発が完了しています。

岩見沢モデルを全国へ

プレコンセプションケアの普及・実践には、医療、学校、地域、企業が一体となって推進することが必要不可欠であるため、岩見沢市でその仕組み（岩見沢モデル）を開発します。岩見沢モデルでの教育・ケアの効果を、S-RED 通信第11号でご紹介した、玉腰先生の若者コホート研究と協力して検証をすすめ、最終的には岩見沢モデルの全国展開をめざします。



荒田 尚子

北大 COI-NEXT
こころとカラダのライフデザイン
共創拠点
副プロジェクトリーダー
研究開発課題リーダー

国立成育医療研究センター
母性内科 診療部長

プレコンセプションケアの目的は、ヘルスリテラシーを向上し、自分の選択肢を増やすところにあります。

COI-NEXT の10年間で、岩見沢市、北大 COI、COI-NEXT の皆様と一緒に、岩見沢モデルを日本全体へ拡充することが目標です。世界への展開も視野に入れています。世界でも例を見ないこの取り組みに、ぜひご協力をお願いします。

北海道大学 産学・地域協働推進機構 社会・地域創発本部 (S-RED)
〒001-0021 札幌市北区北21条西11丁目 FMI 国際拠点 1F
TEL: 011-706-9602 E-mail: coi-meeting@fmi.hokudai.ac.jp



今後のイベント（予定）

12/12 第2回北海道創発会議

2023/01/10 COI & NEXT リーダー会議

2023/02/07 第5回参画機関会議
東京開催（対面・オンライン）

2023/03/18 emmy fes0.9 in 小樽

S-RED 通信
バックナンバー

S-RED通信

